

伊平屋空港、伊平屋・伊是名架橋建設について / 野甫英芳

伊平屋空港と伊平屋・伊是名架橋建設の現状と今後の展開についてお伺いします。伊平屋空港は、平成3年に建設促進委員会を立ち上げています。ですが令和6年度現在、主だった行動がありません。それから伊平屋伊是名空港はですね、令和元年に沖縄県の建設課への要請以来、現在まで全く活動がされていない。そういう状況の中で、村として今後取り組みをどのようにしていくのか、具体的な計画があるのかについてお伺いします。よろしくお願いします。

■議長（金城信光） 名嘉彰建設課長。

■名嘉彰建設課長 7番 野甫議員の質問にお答えいたします。野甫議員のおっしゃるとおり、令和元年度以降コロナ禍によって活動が低迷しているのは事実であります。まず、空港建設促進協議会につきましては、委員の皆さまの健康状態等がだいぶ変化している状況にあります。委員の入れ替えなどを行いまして、早期に総会を開催し今後について調整してまいりたいと思います。

架橋建設につきましては、先般、定期総会が開催され、事業計画、予算等が承認され、活動が活発化できる状態となっていることから、伊是名村と調整しつつ先進地視察などを行っていく予定となっています。以上です。

■議長（金城信光） 野甫議員。

■7番 野甫英芳議員 課長、課長も今回新しく課長になって、伊平屋島空港、それから架橋建設に今年から携わるようになっていますが、この伊平屋村の空港建設の話っていうのは、いつから始まったか分からないですよ。分かりますか。たぶん分からないと思うんですけど、伊平屋島空港の建設の話が始まったのは昭和52年なんですよ。今から47年前から既に空港建設の話が始まって、昔、那覇の繁華街に空港事務所まで立ち上げているという状況があるわけですね。それから野甫島の土地買収とかいろいろあってですね、伊平屋島で空港協議会を立ち上げたのが平成17年です。今から19年前なんです。それで令和6年の現在ですね、それでも全く話が進まないという状況でありましてですね、それからこの空港問題について、この伊平屋島空港のパブリックインボルブメントというのが沖縄県で設定されて、これが18年前。しばらくしたらすぐ空港なんか出来るっていうような感覚だったんです。2、3年したら空港滑走路造るよっていう話だったんですけど、それからまた全然動かなくなった、そういう状況なんですよ。

この前課長がおっしゃったように、伊是名島の皆さんも一緒に新しく協議会を立ち上げて、予算とかいろいろ話はしたんですけど、空港に関しては、伊是名島の議会の皆さん、それからの伊平屋島の皆さんは全く関心がないという状況ですね。この建設協議会に参加しないし、橋は一生懸命取り組みしているんですけど、この空港に関しては全く関心がないというふうな状況です。

それから、この架橋については、以前、総建設費用600億かかるので、もう無理だろうという話があったんですね。ですので、この前、推進協議会で橋に関しては伊是名島に皆さんで行って、視察に行こうかという話もあったんですが、どうなんですかね、建設すること自体が難しいと、できないだろうという状況の中で、視察に行くとか、なんかそういうふうにするよりも、実際現実的に、造る必要があるのかとか、造ったらどうなるのかとか、こういう具体的な話も何もないという状況の

中で、ただ空港を造る、橋を造るという話ばかりしているっていう状況。この前伊是名の議員もみんな、協議会の中でも、こんなに理想ばかり言うんだったら言う必要ないだろうみたいな話がありましたよね。だから、実際、本当にやる必要があって、やろうという意思があるのかどうかっていうところが、ちょっと村長に確認したいんですけどね。よろしくお願いします。

■議長（金城信光） 名嘉村長。

■名嘉律夫村長 野甫議員の質問にお答えします。伊平屋空港、すでに47年も経っているということで、その当時からすると、技術もかなり進歩していますので、あの当時はたぶん飛行場を造っていても、伊平屋に就航できる飛行機はなかったと思うんですけどもね。昨今の航空事情を見てみますと、技術的に短い滑走路でも、離発着が可能な飛行機もどんどん開発されております。その中で、伊平屋村が今後どう進めていくかっていうことについては、やはり決起大会やったとか、総会やったとか、要請活動やったからってできるものではないんですね。何が一番大事かって言ったら、需要なんです。沖縄県が示している伊平屋空港の需要としては、だいたい6万人なんです。

じゃあ、伊是名と伊平屋村が、本当に県が見込んでいる6万人を上回ることができるのか、これが一番の大きな争点だと思うんです。我々がこれからやらなきゃいけない作業としては、もちろん総会も開きます、要請活動もやりますけど、いずれにしても県が示している需要を上回る客、需要を満たす、言わば観光客の誘致をどう増やしていくかですね。もちろん両村民が使うのも含めてなんですけど、やはりかなり大掛かりなことになると思うんです。今はまだ決定ではないですけど、リゾートが来るとかいうこと。

ただ、県が一番懸念しているのは、やっぱり赤字なんですよね。いずれにしても日本の航空会社っていうのは、黒字の空港っていうのはほとんどないです。ほとんどが赤字なんです。それでもやっぱりインフラの面では整備しなきゃいけない状況になってきていますので、例えば伊平屋空港がなぜ必要なのか、例えばインフラの面で、港が使えなかったら物資の輸送をどうするかとか、そういうことも含めて考えていかなきゃいけない。800メートルで本当にこの需要を満たせるのかっていうことも課題として残りますけど、じゃあ、航空会社が求める、滑走路をもう少し延ばすとか、そういうこともしながら今後も計画していかないと、これは非常に県としては厳しい。

今、実際に粟国に飛んでいる第一航空なんですけど、未だにチャーターなんです。定期便として粟国はもちろん人口は少ないです。500名ですから週3回のチャーターで運営していると。第一航空が保有している飛行機は、2機しかないっていうことですね。しかも9名乗り。これで、じゃあ需要を満たせるかって言ったらかなり厳しいですよ。ですから、第一航空をあてにして伊平屋村の空港ができると思ったらかなり厳しい状況がありますので、エアライン、今後新しい航空会社が出てきた場合に、どういうふうに取り込んでいくかということをしっかりやっていかないと、なかなか空港を着工するには厳しい条件が多いもんですから、それをどうやってクリアするかって言ったら、まず誘客をどういうかたちで増やしていくかですね。

実際空港が出来るという前提で、いろんな企業からキャパをどうして増やしていくかっていう提案もあるんですけど、いずれにしても空港が出来ないと、エアラ

インが飛ばないと、就航しないかぎり、このキャパを埋めることができない。県が求める需要より増やすこともできないというのが現状なので、いずれにしても夢の空港ではないと思うんですね。ですから、明石海峡大橋を造った当時のコミッションですね、夢描いたように「人生すべからく夢なくしては叶いません」という名言もあるんですけど、我々もやっぱり、これからどうやったらこの空港が実現できるかっていうことを一生懸命みんなで取り組む。伊是名村とも一緒に取り組んでいかなければ、空港の実現はかなり厳しいです。

それと橋なんですけど、600 億、もっとかかるかもしれない。ただ、これから先ほど議員が質問した中で、本当に橋を架けたら島が豊かになるのかということは、現地を見ればおのずと分かることなんです。じゃあ、伊良部大橋架かりました。伊良部島が本当に良くなったのかっていったら、かなり人口減っているんです。それはやっぱり中央に集中します。宮古島が便利なので、そこに行きます。じゃあ、池間大橋架けました。どうなったか。良くなってないんですね。人口がどんどん減っているんですよ、どういうわけなのか。どうしても中央に集まるということになるんです。我々のすぐ近くにあるのは古宇利大橋です。古宇利大橋は逆に、島以外から人が入ってきていると。リゾート地としてどんどん発展はしているところなんですけど。あまりそういうふうになっても困るわけですし。ですから、本当に橋が必要なのか、景観的にどうなのかですね、そのへんも含めて検討していく必要があると。県としてはこれだけの膨大な費用をかけて本当に、国が認めるかどうかはまだ全然分かってないんです。

この前の県の幹部との意見交換会議では、今年、架橋が調査をした結果を発表するということは言っていましたけども、やっぱりやったけど、調査したんだけどこれはちょっと難しいですって言うかもしれないです。おそらく、できるとは絶対言わないと思うんですけど。やっぱり沖縄県も予算がないんです。昨日も、新聞ですけど、子どもの給食費も賄えないほど今は予算がないので、果たして、じゃあ橋を架けるとか、ここも含めてそうなんですけど、本当にできるのかっていうことは、本当にこれからの知事の手腕にもかかってくると思うんですけど、我々はいずれにしても実現に向けてしっかり取り組んでいかなければいけないのかと思います。

希望を高めるのは非常に大事なことなんですけど、何が大事かって言ったら、自分たちで伊平屋に路線を開設している航空会社と合意を結ぶことが、まず第一条件だと思うんですね。そうしないかぎり、県はおそらく空港建設には着手しないのかなと。今までずっとやってきたんですけど、非常に最近そういうふうに思っています。ですから、例えば鹿児島からでもいいんですよ、福岡からでもいいと思うんです。沖縄路線、那覇まで、伊平屋までっていう路線が開通する航空会社がいるのであれば、着工は可能ではないかとは思っています。いずれにしても夢を捨てずに、あきらめずに粘り強く、行動することが大事なかなと思っていますので、みんな頑張ろうと思います。よろしくお願いします。以上です。

■議長（金城信光） 野甫議員。

■7番 野甫英芳議員 担当の課長、今の状況を聞かれて、なんて言うんですかね、私は思うんですけど、いろんな問題があるので、その問題を一つ一つ全部整理して取り上げて、問題解決をどのようにするかということをもっとやってほしいと思うんです。ただ造ろう、造ろうというだけでは、無駄な時間ですので、今後は伊是名

の皆さんとも協議して、造るためにはどうしたらいいかという具体的な話し合いをして、いろんな問題を取り上げて、それを解決するというか、その問題を解決することから始めてほしいと思います。ということで、空港と架橋についてはこれにて終了いたします。